

次世代学習塾 フロンティア進学ゼミ

峯岸 武司 塾長



峯岸武司 塾長

2008年3月創業のフロンティア進学ゼミは、集団授業と個別指導を併用したハイブリッド型で学習指導を行い、それぞれの長所を生かした指導システムによって生徒の成績と学力を着実に伸ばしている。創業から10年を過ぎた今、新たな動きや今後の塾づくりについて峯岸武司塾長に話を伺った。

集団授業と個別指導の長所を ミックスした指導システム

峯岸塾長は、大学卒業後、大手企業にしばらく勤務したあと、地元で学習塾で講師を務め、その後自ら塾を立ち上げた。

「コンセプトは3つあり、まずは成績や学力の伸ばせる塾であること。次に、子どもたちが夢や目標を持ち、それらが実現できる塾であること。そして、料金体系が明確な塾であることである。指導対象は小5〜高3。」

集団授業と個別指導を併用したハイブリッド型指導システムはフロンティア進学ゼミの特色の一つと言えるが、そもそも集団授業と個別指導は独立したものでなく、縦系と横系横系のような関係にあると同塾では考えている。

「集団の中に緊張関係を生み、教える側も受ける側も限られた時間の中で真剣勝負を行うことができます。自分が集

団のペースに合わせなければいけないので、その集団のレベルが高ければ、そのレベルに合わせるために努力を要求されます。その努力こそが、実力を身につける原動力となるわけです。とはいえ、それでもそのレベルやペースについて行けず、学習意欲が低下してしまう子がどうしても出てきてしまうのが集団形式の弱点です。個別指導は一人ひとりの生徒に合わせてきめ細かい指導ができるというメリットがある反面、競争意識が生まれにくくなるデメリットがあります」と峯岸塾長は言う。

だからこそ、フロンティア進学ゼミではそれぞれの長所をミックスした形で授業を進め、基本は集団形式をとりながらも、理解が不足している場合には個別指導を行い、理解できないまま学習を進めないよう工夫しているという。

自立式個別学習空間 「Study:Gym」は？

昨年(2018年)春、自立式個別学習空間「Study:Gym」を設置した。スポーツジムをイメージしてのことだという。

最善の教材・指導法を 常に模索し、 質の高い教育を提供する

映像授業を受ける生徒



「プロの学習インストラクターが常駐していて、分からないところの質問にもすぐに答えてくれる」という。高校生は「Study:Gym」で学習することになっている。

「ダイエットをしたいとか筋トレをしたいと思っても、家ではなかなかトレーニングを続けることができないので、多くの人はスポーツジムに行くのです。それと同じように、集中して勉強したいけれどゲームなどの誘惑に負けてしまったりしたら、勉強にもスポーツジムのようなものがあるのではないのでしょうか。そんな発想から生まれたのが、Study:Gymなんです」と語る峯岸塾長。

「部活やクラブチームの都合で塾に通いにくい」「中等教育学校や私立中学校に通っていて、ピタリのカリキュラムの塾に通いたい」「高校の進度にピタリ合ったカリキュラムで勉強したい」「高校の授業を速習ではじめから学び直したい」「大学受験を目指すために、一流の講義を受けたい」「浪人や社会人から大学入試を目指したい」「英検・TOEICなどの資格試験を効率よく学習したい」など、一人ひとりのニーズに合った学習ができるというものである。しかも教室

には「当初は高校生も私たちスタッフが指導していたのですが、最近特に講師が足りなくなっています。だからといって講師の質を下げるわけにはいきませんから、授業を行い生徒に理解してもらったところをウイングネットの映像授業の先生方にお任せしようと考えました。わかりやすく感動的な授業ばかりで、質の高い授業であるのがとても気に入りました」と峯岸塾長は語る。

しかし「Study:Gym」はスタートさせてから日も浅い。課題も多く、まだまだ改善の余地が多く残っているという。

「ウイングネットを導入しているとはいえ、まだまだ活かしきれいなと思えます。事例研究をさせていただきながら、今後は中学生にも広げていきたいと思っています。」

保護者や他の学習塾と ゆるやかな「コミュニティ」を

創業して10年を過ぎたフロンティア進学ゼミだが、特にここ3年ほどは塾

をめぐる環境が激変しているのを感じます。それらも視野に入れた塾運営が必要だと峯岸塾長は考えている。

「どこもそうなのかもしれませんが、とにかく少子化が進み、生徒を集めにくくなっています。加えて講師も集めにくくなっています。にもかかわらず塾の教場数は増えていて、供給過多の状況です。他業種から塾業界への参入も増え、新しいタイプの塾も誕生しています。このような厳しい状況の中では規模では大手塾にかないませんから、小さい塾はより一層専門性を高め、濃度の高い教育をしていくしかないと考えています。」

また、保護者のニーズも多様化している」と峯岸塾長は言う。

「塾にとって保護者との「コミュニケーション」はとても大事なのですが、その保護者も塾に求めるものが非常に多様化している」と最近特に感じています。

その保護者とさらにつながりたため、ゆるくて気軽な「コミュニティ」をつくりたいと峯岸塾長は言う。

「保護者会などの堅苦しいものではなく、サロンというか、お茶会というか、気軽に保護者がおしゃべりできるような、そんなものを月に1回くらい定期的に開催したいですね。そこで保護者の本音を聞き、極力、塾運営に活かしていきたいと思っています。」

ゆるくて気軽な「コミュニティ」づくりは、同業者に対しても同じ思いだ。「志の近い他塾の先生方と飲み会みたいな感じで情報交換などができたらと思っています。同じ群馬県でも市が違えば様々な状況が違うもの。情報交換してお互いの塾を見学したり、良いところを取り入れるなどして学び合つことができれば、塾業界の発展にもつながると思います」と峯岸塾長は語る。

周囲の状況に応じながらも、さらに専門性を高め、1本筋の通ったブレない軸を持つことによって自塾をいつそう進化させたいと考えている。

